

大会規定

1. 1チームの登録選手は、11名以上、20名以内とする。
2. 出場選手は現在連盟への登録済の者に限る。
3. チーム責任者は、登録選手及び登録された監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入ることが出来る。
4. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。
5. 監督（背番号60）・コーチ（背番号50）は選手と同じユニフォームを着用すること。
6. 試合開始時間1時間前に試合場に到着し、到着と同時にスターティングメンバー表を5部審判部に提出し、所定の審査を受けること。【注意】（イ）を参照
7. メンバー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
8. 試合開始時間までにチームがグラウンドに現れないとき、主審は没収試合を宣告することができる。
9. 試合は中学生レギュラーの部7回、ジュニアの部6回・小学生の部6回とし、延長戦は小・中とも2回の延長を認める。（但し、決勝戦は、3回の延長を認める。）
【注意】（ロ）を参照 初日の試合は、小学生の部1時間40分、
中学生レギュラーの部7回1時間50分（ジュニアの部1時間40分）
10. 同点の場合は、最終回のメンバー全員の抽選で決める。
11. 4回又はそれ以上の回を終わって7点差（小学生の部、中学生ジュニアの部）
中学生レギュラーの部は4回終了時10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
12. シートロックは行わない。
13. 投手は、1日6イニング（中学生レギュラーの部のみ1日7イニング）までしか投球できない。1イニングに1球でも投げれば1イニング投げたとみなされる。（例えば、1回に1球投げてチェンジとなり、2回に1球投げて投手交代となった場合は2イニング投げたこととなる。）尚、小学生の部は変化球を禁止する。
14. **守備側の指示・伝達に関する制限**
監督又はコーチが投手に対し指示を与える目的をもってタイムを要求する場合、直接・間接を問わず1試合2回までとし3回目は自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置についても良いが、再び投手として登板することはできない。内野手（捕手を含む）が2人以上投手のところに行った場合も1回に数える。（選手のけが、選手の交代時のタイムは除外）尚、延長に入った場合は、1回のタイムを認める。
15. **攻撃側の指示・伝達に関する制限**
攻撃の時も1試合につき2回までのタイムが許される。（選手のけが、選手の交代時のタイムは除外）
延長に入った場合、1回の指示・伝達を認める。
16. 監督又はコーチが選手にアドバイスする時は、マウンドで行う。（もちろんベンチから駆け足で）尚、指示・伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」に制限する。
17. 二塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
18. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
19. ヘルメット1チーム7個同色で完全なものを備えること。
20. バット及びボール、スパイク、クラブ等は連盟指定業者のものに限る。
21. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
22. 外国籍選手の登録は、1チーム5名以内とする。
23. グラウンドの都合で大会規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
24. 光化学スモッグ発生（予報・注意報・警報）した場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。

[注]（イ） 3回終了時、次の審査を行う。

従って、試合開始時間はあくまでも予定であることに留意すること。

（ロ） 正規の回数（小学生の部6回・中学生レギュラーの部7回、ジュニアの部6回）を終了し同点の場合、通常の延長戦は行わず、タイブレークを2回行う。

（ハ） 天候状態、時間制限または日没等によりコールドゲームが宣せられた場合、4回を終了していればゲームは成立する。正式試合の詳細は公認野球規則の5回を4回に置き換えて適用する。但し、タイムゲームやサスペンデッドゲームは採用しないので、ゲームが成立し且つ同点の場合は抽選となる。